

次年度開催県あいさつ

長崎県社会教育委員連絡協議会
会長 江頭 明文

みなさま、こんにちは。ただいまご紹介いただきました長崎県の江頭明文でございます。来年度、長崎県で本研究大会が開催されることになっております。開催県を代表して一言ごあいさつをさせていただきたいと思っております。

この第42回の宮崎大会を、このように盛大に開催していただいております宮崎県の社会教育委員連絡協議会の森山会長をはじめ大会関係者のみなさんに、まずもって心から感謝を申し上げます。

本日、先ほど全体会で浦安の舞のご報告がありました。私も長崎の小さな学校、全校生徒7名の学校の校長として奉職したことがあります。たった2人の女の子に地域のおじいさん、おばあさんたちが、祭りの行事の一つとして浦安の舞の指導をされておられていたことを思い出しました。すばらしい成果の向こう側に目を細めるおじいさん、おばあさん方の姿があり、この子たちに村の伝統行事を伝えていきたい、絶えることがないようにしていきたいという地域の人たちの思いが、重なってこそ、あのようなすばらしい舞ができたものと思っております。また、ただ今の西米良村長の黒木様のご講演、非常に村づくりを通して地域が元気になっていく、結果として人口が増え、結果として高齢化率が下がっていく、そのために非常に多面的で多様なお取組をされておられる、そのことにひどく感銘をさせていただきました。それぞれの地域、地域で社会教育に苦労の汗を流しておられる皆さん方にとっては、非常に示唆に富んだお話になったのではないかと思っております。明日は分科会になります。今度は会場におられる皆様方が主役の時間が参ります。私ども社会教育に携わる者にとって、大変有意義で内容が充実した大会に私たち自身が、ここに集う全ての人たちがその力を束ねながら、すばらしい宮崎大会にしていければと思っております。

さて来年は、長崎県の開催になります。平成25年11月14日、そして15日の2日間の日程で開催をする予定でございます。大会テーマは、「ふるさとを思い、地域の人々をつなぐ社会教育をめざして」と題して、東日本大震災で改めて認識させられたふるさとを大切に思う心や、日々の暮らしの中で地域の人々がつながることの大切さを考え、今後の社会教育活動につなげていくことができる大会にできればと思っております。

ところで、私たちの長崎県の特徴を一言で言うと、「わからん」とよく言われます。「わからん」の「わ」というのは日本の和、「か」は中華の華、「らん」はオランダの蘭、長崎の文化のことを総してわからん文化、ただ社会教育研究大会はできるだけ分かりやすい大会にしていきたいと思っておりますが、そういうわ・か・らんが相まって独自の文化を確立している街、そして、その文化が市民の生活の中に馴染んでいる街で、この大会を開けることをうれしく思っております。ぜひ来年は、皆様方に長崎においていただきながら、長崎ちゃんぽんであるとか、卓袱(しっぽく)料理、長崎牛も決して宮崎牛に引けを劣らぬおいしい物でございますので、ぜひそういう長崎の料理もご堪能いただければと思っております。合わせて、歴史とロマンの街と言われる長崎の異国情緒あふれる街並みをぜひお楽しみいただければと思っております。長崎の関係者総じて素晴らしい大会にするように努力しつつ、皆さんが長崎においてになれる日をお待ちしております。

最後になりましたが、重ねて宮崎県の皆様方に、心からの感謝を申し上げまして次年度開催県を代表してのごあいさつに代えさせていただきます。ありがとうございました。